川崎病既往児の遠隔期におけるlipid profile

加藤裕久, 井上　治, 佐藤　登

要約：川崎病既往児60例の遠隔期における血清脂質について、患児の冠状動脈所見により冠状動脈異常群、冠状動脈消退群、冠状動脈正常群の３群にわけて検討した。消退群は正常群に比べＴＣ値、ＬＤＬＣ値が有意に高かった。これが冠状動脈病変によるものかどうかはさらに検討を要するが、川崎病遠隔期の管理には血清脂質も含めた管理が重要と思われる。

見出し語：川崎病、血清脂質、冠状動脈異常

研究目的：川崎病既往児を長期管理していく場合、合併した冠状動脈病変による一次的虚血性心臓病と早期動脈硬化病変による二次的虚血性心臓病とを考慮する必要がある。川崎病冠状動脈病変と早期動脈硬化との関連はまだ明らかではないが、その可能性は高いと考えられる。また、これまで川崎病既往児における遠隔期の血清脂質を検討した報告は少ない。そこで、我々の施設で急性期より経過観察している川崎病既往児の遠隔期の血清脂質について検討した。

研究方法：対象は当科で経過観察している川崎病既往児60例(男児40例、女児20例)である。患児の冠状動脈所見より以下の３群に分類した。冠状動脈病変を採血時も認めた25例(異常群)、冠状動脈病変が消退した23例(消退群)、急性期より冠状動脈異常を認めなかった12例(正常群)である。検査時年齢は8.8±3.3歳であり、川崎病発症から検査までの期間は6.11±3.11年で各群間に有意差は認めなかった。血清脂質は総コレステロール(ＴＣ)、HDL-コレステロール(HDLC)、中性脂肪(TG)を測定し、さらにＬDL-コレステロール(LDLC)はＬＤＬＣ＝ＴＣ－HDLC－TG／５から、動脈硬化指数(AI)はＡＩ＝(TC-HDLC)／HDLCから算出し検討した。

久留米大学小児科（Dept. of Pediatr., Kurume Univ.）

結果：正常群ではTC：155.6±29.7mg/dl、HDLC：56.6±10.7mg/dl、TG：816±48.3mg/dl、LDLC：82.8±18.6mg/dl、AI：1.77±0.38であった。消退群ではTC：177.8±26.1mg/dl、HDLC：57.2±14.4mg/dl、TG：98.2±56.6mg/dl、LDLC：101.1±25.8mg/dl、AI：2.28±0.90であり、また異常群ではTC：170.2±22.1mg/dl、HDLC：60.2±15.5mg/dl、TG：96.7±65.5mg/dl、LDLC：90.5±25.2mg/dl、AI：1.98±0.78であった。消退群におけるTC値およびLDLC値は正常群に比べ有意に高い値を示した（P＜0.05）。HDLC値、TG値、AIは各群間に差を認めなかった。今回の検討では高脂血症が疑われる例も存在した。

結論：消退群は正常群に比べTC値およびLDLC値が有意に高かった。これが冠状動脈病変によるものかどうかは症例数が少ないため、さらに検討を要するが、食事指導などが必要と考えられる例も存在し、川崎病遠隔期の管理には血清脂質も含めたトータルな管理が重要と考えられた。

文　献

1）笹栗靖之，加藤裕久ほか：川崎病多発動脈瘤の病理学的検討、特に動脈瘤消退と動脈硬化への進展に関する考察．小児科臨床，32，1521，1979

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:川崎病既往児60例の遠隔期における血清脂質について、患児の冠状動脈所見により冠状動脈異常群、冠状動脈消退群、冠状動脈正常群の3群にわけて検討した。消退群は正常群に比べTC値、LDLC値が有意に高かった。これが冠状動脈病変によるものかどうかはさらに検討を要するが、川崎病遠隔期の管理には血清脂質も含めた管理が重要と思われる。